

不動技研工業、発電用風車の損傷を音で検知 4月から

2024/2/8 18:30 | 日本経済新聞 電子版



チョーカイでは、風車録音データを解析した結果がスマホの画面に表示される

機械設計の不動技研工業（長崎市）は8日、発電用大型風車のブレード（翼）の損傷を音響データで検知するサービス「Chokai（チョーカイ）」を4月1日から始めると発表した。損傷の検知は現在、検査員の聴力と目視確認で行われている。データ解析を導入することでより早く確実に異状を把握できるという。

風力発電には落雷などによる風車のブレードの損傷で稼働率が下がるリスクがある。ブレード交換には多額の費用がかかるため、交換が必要になる前に損傷を早期発見して迅速に補修することがコスト削減や安全維持につながる。同社はブレードの風切り音の波形などを解析することで、異状を現場で検知できる技術を開発した。



発電用風車のそばにスマホを置き、発生音を測定する

チョーカイでは、マイクとアプリを搭載したスマートフォン端末を使用する。点検員がこのスマホを風車の近くに置き、発生する音を60秒間録音する。20秒ほどかけて音響データを解析すると、損傷の有無が画面に表示される。データ解析などに伴う外部との通信はなく、月額3万円で利用できる。

今回発売するチョーカイは、点検員が携帯して現場に持参する必要がある。不動技研工業の浜本浩邦会長は「洋上風力では、遠隔地から常時モニターできるシステムへのニーズもある。現場からデータを通信で送る『常設型』を24年度中に商品化したい」と話した。

許諾番号30097542 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.